

# 秋田の土地改良

# 8

2009・AUG



みどり  
水土里ネット 秋田

目次

知事あいさつ……………	2	秋田県農業集落排水連絡協議会第18回通常総会……………	10
H21農地・水・環境保全活動組織と国との現地意見交換会…	4	県営経営体育成基盤整備事業坊沢地区・蟹沢地区竣工…	11
耕作放棄地再生現地研修会三種町で開催……………	6	第2回理事会……………	12
秋田県農地集団化推進協議会第49回通常総会……………	7	わくわく探訪開催される……………	15
秋田県土地改良事業団体職員会第49回通常総会……………	8	インターンシップ受け入れ……………	16
地球人会議運営委員会……………	9	会員だより……………	16
21創造運動推進本部員会議……………	9	連合会日誌……………	17



# 新任のごあいさつ



秋田県知事  
佐竹 敬久

会員の皆様におかれましては、日ごろから農林水産行政、とりわけ農業農村整備事業の推進につきまして、御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私はこのたび、県政の舵取り役として、「将来に向けて希望が持てる秋田を実現する」ことを訴え、県民の皆様の御支持により、県政を担わせて頂くこととなりました。県民の信頼と期待に応えるべく全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

県政を取り巻く環境は、経済雇用情勢がかつてないほど悪化していることに加え、国内で最も早いスピードで人口減少が続くなど少子高齢化が急速に進み、地域活力が衰退するなど、深刻な状況にあります。行政も従来延長戦上の施策では立ち行かなくなってきており、新たな視点からの政策が求められております。このため、今後の県政運営に当たって基本的な指針となる新プラン「ふるさと秋田元気戦略（仮称）」を策定し、その実現のために、県として特に重点的に取り組むべきものを、「戦略プロジェクト」として進めていくこととしております。

こうした中であって、将来の秋田の発展にとって核となる産業は「農業」であります。

秋田の元気を語る時、「農業」を抜きに考えることはできません。経済指標だけでは語りきれないほど、県内への影響度は大きく、来るべき時代における需要構造の変化や技術革新を展望し、新産業・新事業の創出など新たな成長戦略をタイミングを逃さず積極的に打ち出すことが秋田の明るい未来を切り開くべき道であると考えます。

昨今、世界的な食料需給環境の変化や国民の自給率に対する関心の高まりなどを背景に国内農業が再評価され、これに対応した国の農業施策の見直しの動きが見られるほか、農業分野への投資も拡大して来ております。食料自給率が全国第2位のわが国屈指の農業県であることから、こうした変化をチャンスととらえ、自然豊かな生産条件を活かした「あきた型農業」の実



サクランボの収穫報告  
(生産農家の皆さんと)



県立大学秋田キャンパスにて

現に向けて、新たな視点から戦略的な施策を展開する必要があると考えております。本県では平成21年度を水田フル活用元年と位置づけ、県の基幹産業である水田農業を基軸としながら、大豆や野菜等の戦略作物による複合経営の確立を図り、わが国における食の生産基地を目指すこととしております。

また、農業の生産性の向上と食料供給力の確保を図るためには、良好な条件を備えた農地や農業用水の確保が重要であります。今年度からは、新たに農地集積加速化基盤整備事業を導入し、法人等への集積割合に応じて促進費を交付し、農家負担の大幅な軽減を図り、元気で活力のある地域農業の実現に努めることとしております。さらに、農地や農業用水等の生産基盤は、食料自給力の向上のみならず、多面的機能の発揮に大きく貢献するなど公益性が高いことから、国民が共有する「公共財」として位置づけ、国の責務において、受益者負担を求めない事業制度の創設を検討するよう、先般、国に要望したところであります。

今、農業は大きな変革期を迎えようとしております。地域農業の中核的な役割を担う水土里ネットの皆様におかれましては、時代のニーズに即応した効率的な運営ができるように、確固たる組織体制を早急に整えていただき、今後とも、県が進める施策への御理解と御協力をお願いする次第です。

終わりになりますが、水土里ネット会員の皆様の御健勝と更なる御発展を祈念申し上げ、着任のあいさつといたします。



## 秋田県 農地・水・環境保全向上対策地域協議会

### 平成21年度 東北農政局と活動組織との 現地意見交換会



7月16日(木)、横手市平鹿町浅舞（横手市平鹿生涯学習センター）で「農地・水・環境保全向上対策に係る活動組織との現地意見交換会」が開催され、東北農政局職員をはじめ、県内の活動組織、県及び市町村担当者など約140名が出席した。

開会后、会場にほど近い地区で、「樽見内地域資源保全委員会」の活動状況を現地視察し、P P S工法（開水路更生工法）による水路補修、ほ場での鯉の養殖、30 aの花の植栽（夢花壇）などの多様な取り組みを参加者は熱心に視察した。会場に戻った後、地域協議会会長（本会黒子専務理事）、東北農政局大村行整備部農地整備課課長補佐のあいさつの後、県内9活動組織による事例発表が行われた。



P P S工法による水路補修



夢花壇を見入る参加者

### 事例発表

#### ■大久保農地保全隊（鹿角市）

- ・ホタルの生息調査、EM菌による水質調査、水仙の植栽等
- ・集落全体で行う行事ができ、コミュニケーションが図られた。

#### ■綴子大太鼓の里保全隊（北秋田市）

- ・管理が容易で丈夫なマリーゴールドを植栽。10集落・502名・61団体の規模を誇る。
- ・世代間及び集落間の交流が促進された。事務の簡素化と対策の継続を要望。

#### ■岩子桜の里（八峰町）

- ・鮎の放流、桜の植栽等
- ・地域住民の高齢化対策に役立った。耕作放棄地及び素堀水路の改修等に取り組みたい。